

江東病院

患者支援センターだより

2023 Winter No.4

発行日：2023年1月30日

CONTENTS

ご挨拶

睡眠時無呼吸センターのご紹介

循環器内科のご紹介

小児科のご紹介

ご挨拶

近隣の医療関係の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症の対応で複雑な診療にご苦労されているところ、当院の診療業務にご協力いただき心より感謝を申し上げます。

COVID-19の蔓延から3年を経過しましたが、コロナ感染は終息に向かう傾向もないまま第8波に突入をしてしまいました。今回、重症患者は比較的少ないものの、感染者数が多いため、当院でも再び通常診療に制限が出てしまいました。特に入院では、昨年末のピーク時にコロナ感染症の病床数を10床から14床に増床しましたが、年初からはほぼ満床の状態が続いています。

しかしながら、政府の意向では、今春にも新型コロナウイルス感染症を5類に引き下げることが予定とされています。5類となった場合でも、医療機関でのコロナ診療が変わるとは考えられず、引き続き安全に診療を行うための新たな対応策について検討を始めたところです。

一般診療についても、近隣の医療機関の皆様にご迷惑をおかけしないよう、できるだけ早期にコロナ以前と同様の診療を行う準備を進めます。受け入れも徐々に回復しております。また、前号で紹介しました通り2022年度には、小児科、

産婦人科並びに泌尿器科などのいくつかの診療科で責任者の交代をしております。次年度も新しい部長を迎えるなどして守備範囲を拡げて診療体制を整えるとともに、「患者支援センター」の機能をさらに充実させ医療連携の強化を図りたいと考えております。

最後になりますが、地域の皆様から信頼される病院を目指し、職員が一つになって、力を尽くしていく所存ですので、引き続きのご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

病院長 梶原 一



本当は怖い・・・ イビキ！

あえぐようないびきは**要注意**！

舌などで気道をふさいで気道が狭くなり、この状態で呼吸をすると、出入りする空気がふさいだ物を振動させて音がでます。この音をいびきと言います。要するにいびきとは寝ているときに発している爆音のことで、みなさん誰でもご存知です。

しかし、みなさんがあまりご存知ないのが、病気につながるいびきがあるということです。「すーすー」「ぐーぐー」といった普通のおだやかないびきは問題ない可能性がたかいです。が、「・・・」と何も音がせず、その後「ぐばあっ」という衝撃を伴うような特徴を持ったいびきは要注意です。いってみれば水中に長く潜って、急浮上して息を吸い込む時の音を想像して下さい。このようないびきは直前まで呼吸をしていない可能性があり、睡眠時無呼吸症候群が疑われます。睡眠時無呼吸症候群とは、詳しい定義は別としてざっくり言うと寝ているときに息がとまってしまふ病気です。

睡眠時無呼吸症候群が世の中の注目をあびたのは、2003年3月5日に山陽新幹線の運転手が居眠り運転をして、停車駅を飛ばしてしまったという報道によります。運転手は重症の睡眠時無呼吸症候群だったので。

なのでこの病気は世の中にあきらかになって、まだ20年足らずの比較的新しい疾患概念です。ちょっと前までは、日中眠いなんていう症状は病気とは思われておらず、そんなことを周りの人に言ったら、たるんでるんじゃないかといって、しかられるのが関の山です。なによりも、当の本人が日中眠いという症状を病気だと自覚していないことが多いのです。さらにまずいことには、無呼吸の症状になれてしまって、眠いという自覚症状すら感じないということがあるのです。そうした場合病気の発見は困難となります。

夜寝ているときに息が止まっていて、良い事など一つありません。寝ている時に1分間、2分間と息が止まってしまうことも珍しくありません。体は低酸素状態になり特に脳は低酸素に弱く、深刻です。酸素は血液に乗って運ばれ、血液は心臓から送り出されるため、体に酸素を送ろうとして心臓に負担がかかります。睡眠時無呼吸症候群の行き着く先は脳卒中や心筋梗塞となります。クリニックの先生では、患者さんの体重が増え、



血圧が上昇したり多血症を認めたりというのも睡眠時無呼吸症候群を疑うきっかけとなります。

治療は重症度に応じて行います。重症の人はCPAPと呼ばれる治療を行います。中等症や軽症の人はマウスピースを作成します。またこの病気は肥満の人に多く、減量は全ての患者さんに大切な指導となります。

以上の様にいびきが気になる、日中眠い、家族に寝ている時に息が止まっていると言われたなどの症状があるときは、是非ご相談下さい。またクリニックの先生にはそうした患者さんのご紹介もよろしくお願いいたします。

文責： 星 作男



【睡眠ポリグラフ検査の様子】

写真はPSG検査の時のモニターを装着したときの様子と、CPAPを装着して寝ている時の様子です。（被験者は筆者です）上から脳波、眼電図、口・鼻の気流・おとがい筋筋電図、胸腹部の動きのセンサー、指には酸素飽和度モニターが装着されています。



【CPAP装着の様子】

フルフェイスマスクを装着して口と鼻がおおわれていますが、鼻だけにつけるマスクや鼻の穴にいれる簡便なタイプもあります。



循環器内科：Cardiology

当科では、心臓のはたらきが悪くなる「心不全」、心臓の血管がせまくなったり詰まったりする「狭心症や心筋梗塞」、足の血管がせまくなる「下肢閉塞性動脈硬化症」、足の血管にある一方通行弁がうまく働かなくなる「下肢静脈瘤」、脈のリズムがおかしくなる「不整脈」などを専門的に治療しています。特に増加傾向にある心房細動について説明します。

心房細動は進行性の不整脈です。不整脈の一種で、動悸、めまい、胸痛や胸部不快感の原因になります。年々増加しており、特に年齢を重ねるとなりやすいです。心臓のなかで血のかたまり（血栓）ができやすくなるため、血栓を予防することが重要です。65歳以上（特に75歳以上）、高血圧症、糖尿病、心不全の方、何かしらの梗塞歴のある方は、特に脳梗塞をおこしやすいことがわかっています。心不全の原因になったり、ペースメーカーという脈を補助する機械を必要になったりすることがあります。

診断されたら？
年齢や基礎疾患によりますが、血栓ができにくくなるお薬や抗不整脈薬を服用し、根治術であるカテーテル治療（カテーテルアブレーション）を検討します。血栓予防のお薬の有効性は100%ではないため、できるだけ不整脈がおこりにくい状態にもっていくことを目標に治療します。健康

診断などでたまたま見つけて特に症状がない方は、困っていないので積極的な治療や予防を希望されないことがあります。しかし進行性の病気なので、自己判断で放置しないことをおすすめします。

カテーテルアブレーションは不整脈の治療方法です。

足の付け根の静脈から電極カテーテルを心臓に運び、高周波通電で焼灼します。焼灼時間は1分前後で、不整脈がおさまるまで何度か行います。

カテーテル操作中には血栓を予防する薬剤を使用するので、カテーテルをぬいたあとの内出血や、心臓の外に血液がもれてしまう心タンポナーデに注意して行う必要があります。経過をみるために短期ですが入院で行います。

*もともとの電気の通り道に近すぎる場所は焼灼できません。

さいごに

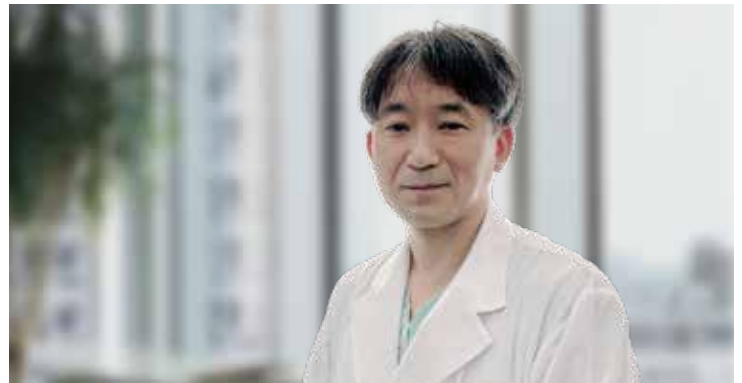
ご自宅で症状があっても受診時におちついていれば、通常の検査では医師が心房細動に気づかず「異常なし」と診断する可能性があります。24時間心電図で検査しても、検査当日に発作がなければ同様です。現在は、外来で行える小型の植え込み型心電計という検査があり、正確な診断につながるが増えました。ご希望があれば当科にお声掛けください。

文責： 高部 智哲

小児科：Pediatrics

江東病院小児科は江東区内で初めて小児科において入院が必要な患児を受け入れてきました。現在、江東区内で小児科入院診療できる2施設のうちの一つであります。都営新宿線大島駅の目の前という都内からのアクセスに恵まれており、小児救急外来を備えて24時間365日小児科診療を担っています。小児科スタッフは4名であり、それぞれが各専門性を生かし、一次から二次小児医療を日々診療しています。病院小児科であり、必要な患児はそのまま入院診療ができます。コロナ禍ではあるものの、ウイズコロナとなりつつ、社会活動はコロナ以前に戻ってきています。それに伴い、新型コロナウイルス感染症以外の感染症も出てきているのが現状です。日常診療をしており、入院加療が必要と感じた際には是非ご相談いただければ幸いです。入院診療において、基本的には患児のお預かり入院ですが、どうしても付き添ってあげたいという親御様のニーズに応えて、付き添い入院も可能としています。親御様の新型コロナウイルス検査陰性や病室代がかかりませんが、昨今、付き添いをやめている病院小児科がほとんどで、特にコロナ以外の感染症で入院される患児の付き添いを許可している病院は、数少なくなっています。そのため、江東区内にとどまらず、他の区からの付き添いを目的とした紹介も受けている状況です。入院患児において、時に専門性の要求される疾患もままあります。他院とも連携いたしますし、特に当科は順天堂大学順天堂医院

からのスタッフを派遣いただいておりますので、順天堂大学との連携を密にご紹介もさせていただいております。消化管疾患を中心に、循環器疾患、神経疾患、腎臓疾患、内分泌疾患と小児内科領域を幅広く、専門性高い診療を行っていただいております。時には手術が必要なお子様もおり、順天堂大学順天堂医院小児外科は、昼夜問わず相談できますので、内科に留まらず、外科診療の連携も可能です。お困りの症例がございましたら、当科にご相談いただければ幸いです。



新妻 隆広 にいづま たかひろ

小児科部長

出身校：川崎医科大学

専門分野：小児科

資格：日本小児科学会専門医・指導医

日本感染症学会専門医・指導医

日本化学療法学会 抗菌化学療法指導医

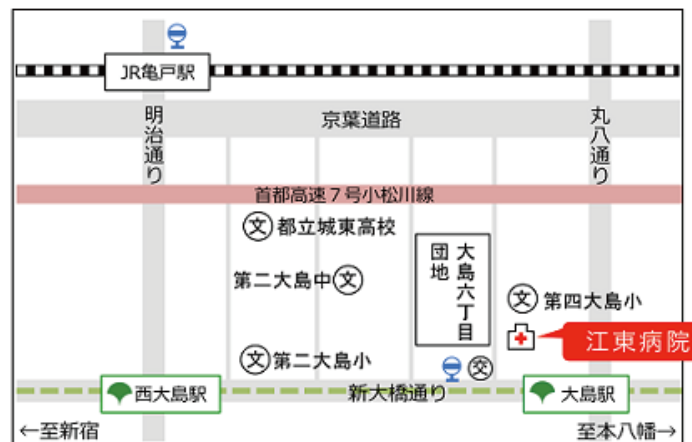
日本旅行医学会認定医

コメント：感染症でお困りのことはご相談下さい。

当院の診療について

		午前	午後
月～金	初診	8:00～11:00	11:35～15:00
	再診	8:00～11:30	11:35～15:30
土	初診	8:00～11:00	休診
	再診	8:00～11:00	
診療時間		9:00～12:00	13:00～16:30

- 診療科または医師により、受付時間及び診療時間が異なる場合があります。
- 休診日は日曜日、第2土曜日（但し、翌月曜日が祝日とならない場合）、祝日、年末年始（12/30～1/3）となります。



- 都営新宿線大島下車（出口A2）1分
総武線亀戸駅より葛西橋行、東大島行、東陽行バスで大島駅江東病院前下車

医療機関からの患者さんのご紹介・検査予約
江東病院 患者支援センター
医療連携室 03-3685-2253（直通）
03-3685-2766（FAX）
E-mail:renkei@koto-hospital.or.jp

※ 当院では、安全かつ安心な医療を提供できるよう
感染防止対策を講じておりますので、ご協力下さい。